

焼き物ができるまで

1 採掘 … 原土をあつめる
粘土となる原土を山から掘りだし
ます。原土は、野ざらしにして使い
やすくします。
※原土…笠間焼の原料となるもの



2 精土 … 粘土づくり
原土に水を加えてドロドロにし、
ふるいにかけゴミなどを取りのぞき
ます。その後水分をしぼり粘土の
かたまりにします。



3 成形 … 形づくり
精製した粘土を、①ロクロづくり
②タタラづくり③手びねりなどの
方法で形をつくります。中でも電動
のロクロを使うとたくさんのうつわ
をつくることができます。



4 乾燥仕上げ
形づくりの後はひびがはいらない
ようにゆっくり乾燥させます。また、
完全に乾く前にうつわの底をけずる
などの仕上げをします。このときに、
けしろう土をぬったり、線ぼりなどの
デザインを入れたりします。



5 素焼き
よく乾燥させたうつわを窯に入れて
素焼きをします。素焼きをすると
うつわに強度が出たり、『釉薬』が
かかりやすくなったりします。
※釉薬…やきものの表面をおおう
ガラス質のコーティング



6 絵付け・施釉
素焼きしたうつわに絵付けをした
後、釉薬をかけます。
釉薬は、長石・木の灰・ケイ石などを
水と一緒に混ぜ合わせてつくります。



7 本焼き
うつわを窯につめて、1,250度くらい
の高温で焼き上げます。
窯の種類は、電気窯、ガス窯、灯油窯
が多く使われます。



8 窯出し
本焼きの後、2日～1週間かけて
ゆっくり冷まし、うつわを窯から出し
ます。ひびわれがないかなどの
検査をして出来上がりです。



焼き物の技法

ロクロづくり



回転する台に粘土を
のせ、まわしながら
成形する技法

タタラづくり



粘土を板状にし、これを箱
型や筒状にしたり、型に押し
当てたりして形を作る技法

手びねり



指先で形を作る技法

化粧がけ



成形した素地の上に白
い泥土をつけ、上に透
明な釉薬をかける技法

絵付け



やきものに絵やもよう
をつける技法



写真提供：茨城県立笠間陶芸高等学校

お問い合わせ 茨城県陶芸美術館

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2345番地
[笠間芸術の森公園内]
Tel. 0296-70-0011 Fax. 0296-70-0012
URL <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>



とうげいびじゅつかん
陶芸美術館HP

2021年3月作成

かさまやきの れきし

笠間焼の歴史



かさまやき 笠間焼について

笠間を中心とした地域で製作されたやきもの
(陶器・磁器)は笠間焼と呼ばれます。昔の笠間焼は、
壺や甕といった日常生活で使用する器が中心
でしたが、今では生活の器のほか、立体造形や伝統
工芸などさまざまな作品がつけられています。

いばらきけんとうげいびじゅつかん
茨城県陶芸美術館
IBARAKI CERAMIC ART MUSEUM



日本のやきものの歴史

やきものは、いろいろな時代の中で人々のくらしや文化に深く関わり合いながら移り変わってきました。

昔は暮らしにかかせないものだったんだね。

縄文時代

やきものはじまり
縄文土器



【阿玉台土器】
茨城県龍ヶ崎市羽原町出土 文殊院蔵
(茨城県立歴史館寄託)

鎌倉～室町時代

中世古窯の成立
信楽焼



【自然釉刻文大甕】
東京国立博物館蔵 ※1
※1 ※2 ※3の典拠: ColBase (<https://colbase.nich.go.jp>) を茨城県陶芸美術館が加工

安土・桃山時代

茶陶の隆盛
美濃焼(志野焼)



【志野焼 銘 振袖】
東京国立博物館蔵 ※2

江戸時代(前半)

磁器づくり始まる
有田焼(伊万里焼)



【色絵椿図大皿】
東京国立博物館蔵 ※3

江戸時代(後半)

庶民へのひろまり

笠間焼

すり鉢



【すり鉢】
当館蔵

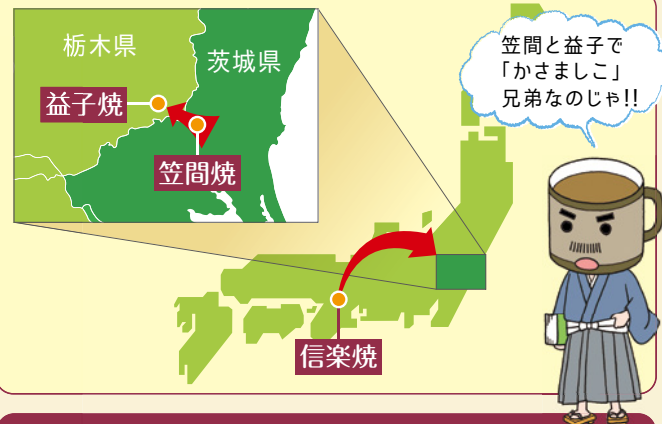
茶つぼ



【難白釉青流掛茶壺】
当館蔵

笠間焼のおこり

笠間焼は、信楽焼から影響を受けたため製法や形など似ている点が多くありました。その技はのちに益子焼へと伝えられていきました。



笠間と益子で「かさましこ」兄弟なのじゃ!!

笠間焼の歴史 ～やきものづくりを支えた人たち～

笠間焼のはじまり

江戸時代後半

箱田焼のはじまり

箱田村の名主、「久野半右衛門」が信楽の陶工「長右衛門」と出会い、やきものづくりを始めたといわれています。



江戸時代につくられた久野窯の登り窯

穴戸焼のはじまり

ややおくれて、穴戸の「山口勘兵衛」が水戸藩に伝わった製陶技術を学び、やきものづくりをはじめたといわれています。

笠間焼のひろがり

明治時代はじめ

田中友三郎が笠間焼を売り出す

箱田焼と穴戸焼を「笠間焼」という名で売り出し、笠間焼の名は全国に知られるようになりました。



田中 友三郎 ※4

明治時代中ごろ～大正時代組合の設立と伝習所の設置

後継者の育成や笠間焼の発展のため、田中友三郎が中心となって呼びかけ、陶器製造組合や陶器伝習所がつけられました。



笠間陶器伝習所 ※5

笠間焼の低迷・発展

昭和初期～昭和25年ごろ

伸び悩む笠間焼

戦争や不況などの影響と、戦後の生活様式の変化で笠間焼が生活の中から姿を消していき、かつてない低迷の時期となりました。

昭和25年ごろ～現在

発展する笠間焼

昭和25年に茨城県窯業指導所がつくられて、笠間焼の窯元(作家)も徐々に増え、笠間焼は大きく発展していきました。



茨城県窯業指導所(創設当時) ※6

これからの笠間焼

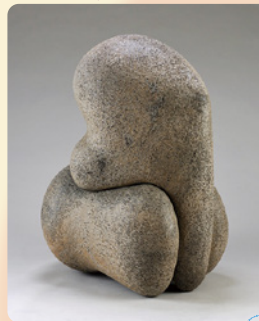
平成4年に国の「伝統的工芸品」に指定されました。茨城県陶芸美術館が開館(平成12年)し、窯業指導所も茨城県立笠間陶芸大学校へと改編(平成28年)され、新しいやきものがつくられるようになりました。

令和2年6月『かさましこ〜兄弟産地が紡ぐ「焼き物語」〜』笠間焼・益子焼が日本遺産に認定されました。また、海外への輸出をはかるなど、笠間焼はさらに発展しつつあります。



陶芸美術館で開催した日本遺産認定記念「かさましこ〜兄弟産地が紡ぐ「焼き物語」〜」展

くらしと笠間焼 ～くらしを彩るやきもの～



あべ 信太郎
レリーフ皿 2018年 個人蔵

こんなステキなうつわで食事してみたいわ



鈴木 麻起子
Turkish 2016-17年 当館蔵



寺本 守
銀彩花器 2021年 個人蔵



鯨井 円美
コーヒーセット 2018年 個人蔵